地域経済連携と他業種連携による商店街の再構築事業

紋別まちおこし塾

【活動の目的】

当会は、平成24年に設立されて以来、紋別市の中心商店街の活性化のため、景観整備事業や賑わい創出のイベント企画等を実施してきました。

今回の取組みは、近隣町村連携による域内商店の収益拡大と異業種連携によるコミュニティーの構築による商店街の活性化を目的に、紋別市内の空き店舗を活用した交流実験店舗を中心に活動を行いました。

【滝上マルシェの開催】

滝上マルシェは、2021年10月９日（土）と10日（日）の２日間にわたり開催しました。出店者は、滝上町の滝上木工、萌芽（ほうが）、百笑（ひゃくしょう）たきのうえ、滝上地場産品振興会、滝上観光協会の５団体が参加し、当日は、約100名が来店しました。宣伝方法は、新聞へのチラシ折込、ポスティング、地元紙の広告掲載、各施設へ置きチラシによる告知を行いましたが、想定した来場者数には至りませんでした。原因の一つとして、新型コロナウイルスの感染者が減少したことで、紋別市内や近隣の町で多くのイベントが開催され、結果的にお客が分散したものと思われます。「物を売る」「食べてもらう」だけでは集客は難しいことがわかりました。次の開催に向けて、人を集めるための仕組みを検討することとしました。

滝上マルシェの開催風景

【絵本の日の開催】

絵本の日のイベントは、2021年10月31日（日）11時～15時に開催しました。出店者は、小宮慶子、ほの香、清水雪絵、百笑たきのうえ、ブレーメンファーム、大村優介、neiro、nico、Casochi、メーメーベーカリー、流氷文庫、シリエトクノート、おほーつく食品倶楽部が参加し、当日は約100名が来店しました。宣伝方法は、滝上マルシェと同様、新聞へのチラシ折込、ポスティング、地元紙への広告、各施設へ置きチラシによる告知を行いました。

まちライブラリーの事業を考えている地域おこし協力隊の実証実験と、集客のための「子供マルシェ」を合わせた事業で、企画は若い主婦のグループが担当しました。集客の仕組みでは、木工オモチャ、木工芝居、アイシングクッキーづくり、ハロウィンバッグづくり、絵本のばくりっこ等のイベントを行い、また絵本に出てくる食べ物（おしるこ・カレー・団子・ケーキ・飲み物）などが食べられるといった若い主婦たちの企画は好評で、短時間での開催となっていますが、親子づれが多く、中には長時間滞在するお客さんもいて、常に店内が賑わっている状況となりました。

絵本の日の開催風景

【絵本とクリスマスの日の開催】

絵本とクリスマスの日では、2021年12月19日（日）11時～16時に開催しました。出店者は、小宮慶子、ほの香、nico、KARSUI、ブレーメンファーム、おほーつく食品倶楽部、吉田育子、成田沙織、もてぎあやか、吉田さやか、紋別まちおこし塾、Casochiが参加し、100名が来店しました。

宣伝方法は、SNSでの配信と、出店者によるチラシ配布によって告知を行い、また集客の仕組みは、木工オモチャ、折り紙あそび、松ぼっくりでツリーをつくろう、手形の絵づくり、などのイベントを行っています。

今回の開催では、自立した運営ができるかを検証す

るため宣伝方法を従来と変え、また出店料を徴収して行いました。結果的には、出店料を賄える程度の売上はあったものの２日間行うことで経費が賄えたと思われました。しかし、出店者の多くが若い主婦だったということもあって家庭の事情など１日だけの開催となっています。

クリスマスの日の開催風景

【オホーツク屋マルシェの開催】

オホーツク屋マルシェは、2022年７月23日（土）、24日（日）各10時～17時に開催しました。出店者は、スタジオベルノ㈱、ほの香、Café m's本舗、cheerily works、Lihilihi、kana yuki、オハコ、しょこつがわ連携研究会が出店しました。宣伝方法は、地元紙による広告、実行委員会のチラシ、出店者によるチラシ配布として集客を行い、約300名が来店しています。

今回のマルシェ開催は、コロナ禍によって二年ぶりの開催となった「もんべつ観光港まつり」実行委員会からの参加要請によって、従来は、地元企業・団体のみが出店できるイベントでしたが、参加を決めて開催をしました。

集客の仕組みとして、竹のおもちゃとゲーム、ガリンコ号チョロQゲーム、アクセサリーづくりのイベントを用意し、当日は多くのお客さんが来店したものの、土日とも天候が雨で、お客さんの一部は、雨宿り目的で来店した人もいました。

今回のイベントで用意した、しょこつがわ連携研究会の「ガリンコ号チョロQゲーム」は、参加費１回100円のゲームに、２日間で約200回利用されるなど、子どもたちの人気ゲームになっていました。

【その他の活動】

その他の活動では、①「調査・情報収集」、②「レシピの開発」、③「空き店舗の片付け」を行いました。①「調査・情報収集」では、商品開発のためのネットワークづくりのため、オホーツク圏で唯一の食品開発に特化した研究機関「オホーツク財団」や、特徴ある店舗の、オホーツク・テロワールの店、uminoba 、ma sim simなどでヒアリングを行いました。

また、新商品開発者に関しては、５年ほど前に旭りんごのシードルの商品開発を行った篠根果樹園や、合同会社大地のりんご（代表者は、テロワールの店およびコネクトップオホーツクの運営者）でヒアリングを行いました。

②「レシピの開発」に関しては、「ジュニア、シニアカレー・昭和なラーメン」の商品開発を行い、料理は低価格での食事提供を目的として開発し、「子供食堂」での提供をイメージしています。

カレーは、「絵本の日」「クリスマスの日」で提供しました。試食会では大好評だったラーメンの提供機会はありませんでした。

③「空き店舗の片付け」に関しては、103年続いた金物店の店主が亡くなったことで、2021年12月に閉店しました。亡くなった店主は、商店街の理事長まで務めた方で、商店街の活動に尽力されてきました。その店主の思いもあって、遺族から商店街のために店舗を使ってほしいとの申し出を受け、いつでも利用できるよう片付けを行いました。

情報収集の様子

オホーツク屋マルシェ

【今後の取組み】

紋別市の商店街活性化の取組みでは、近年、地域プロジェクトマネージャー（総務省の制度）を活用し、2022年７月に、まちなか交流スペース「タタラバ」が紋別市中心市街地の商店街にオープンしました。この施設を活動拠点として、「みんなのマチナ化プロジェクト（本部長：紋別市長）」が商業者を対象にした勉強会や研修会を開催しています。当団体も、その実行スタッフとして関わることとなっており、こうした活動なども含め、今後も商店街の再構築に向けた活動を行っていきたいと思います。